

英語教育に携わるすべての先生方・教育関係者の皆様へ

# 人格形成につながる 英語教育を目指して

大阪教育大学 教授  
GEETブランドコンセプト監修  
加賀田 哲也

1. 外国語学習の目標と目的	p.1
2. 人格形成をめざす英語教育	p.1
2.1. 人格形成をめざす英語教育とは	p.1
2.2. HLTの目標とは	p.2
2.3. 言語活動設計の際に考慮すべきこと	p.3
3. 人格形成をめざす英語授業の実践例	p.5
4. おわりに	p.8

## —著者紹介—

現在、大阪教育大学教授。州立ワシントン大学(University of Washington)にて学士および修士、大阪大学より博士号(人間科学)取得。英語授業研究会理事(前・会長)、日本児童英語教育学会理事、関西英語教育学会理事、ヒューマニスティック英語教育研究会会長。編著書に『最新小学校英語内容論』『最新英語教育法入門』『心を育てる英語授業、はじめました—教師たちの挑戦と実践』(いずれも研究社)、共著書に『英語授業改善への提言』(教育出版)など多数。文部科学省検定済教科書英語(小・中・高)の著者。



# 1. 外国語学習の目標と目的

私は大学で英語教員をしています。前任校では「どうして英語を学習しなければいけないの?」「日本で生活する限りは、英語は必要ないのでは?」と尋ねられたことが度々ありました。英語学習に苦手意識をもつ学生から尋ねられることが多かったのですが、その当時は自分自身が納得のいく考えを示すことができなかつたと思います。

確かに、学習指導要領には、外国語教育の「目標」として、学習者の外国語によるコミュニケーションを図るための資質や能力を育成するとあります。しかしながら、これはあくまでも「目標」であって、「目的」ではありません。「目標」と「目的」は異なります。

「目標」はその上位概念にある「目的」を達成するための具体化されたためあてに相当するものです。では、外国語教育の「目的」は何でしょうか。言い換えれば、「何のために外国語によるコミュニケーションを図るための資質や能力を育成するのか」ということです。

昨今、あまりにも「コミュニケーション」という言葉が独り歩きし、コミュニケーション能力の育成が、あたかも外国語教育の「目的」として見なされている傾向があります(「目標」の「目的化」現象)。では、ここであらためて「教育の目的」について見てみましょう。教育基本法第一条では「教育の目的」を次のように掲げています。

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

これを見ると、外国語教育も児童生徒の「人格の完成」に資するものでなければなりません。ということは、いかに外国語教育が

学習者の人格形成に貢献できるかが問われることとなります。

## 2. 人格形成をめざす英語教育

### 2.1. 人格形成をめざす英語教育とは

外国語を教える際のアプローチやメソッドは、文法訳読法、オーラルメソッド、オーラル・アプローチ、コミュニケーション・アプローチなど多様にあります。そのなかでも、学習者の人格形成に資する外国語教授法として、Humanistic Language Teaching (Humanistic Language Teaching、以下HLT)が挙げられます。筆者はHLTをコミュニカ

ティブ・アプローチの傘下にあると捉えており、HLTを以下のように定義づけたいと思います。

外国語(本稿では「英語」)を教えるというプロセスのなかで、確かな英語力・英語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、自己と他者、社会、世界との関わりを通して、学習者の豊かな人間性を涵養し、人格

形成に資する教育(三浦・加賀田 2025)。

英語の授業ですから、英語に関する知識・技能、運用能力を培うことは、当然のことです。ただそれだけではなく、学習者一人ひとりが、英語という言葉を使って表現することの喜びやもどかしさ、他者とながら、理解し合うことの充足感や難しさを実感しながら、人間的に成長していくことを支援していくことがHLTの支柱となります。

HLTの根底にはアメリカの心理学者であるCarl R. Rogers(1902~1987)やAbraham H. Maslow(1908~1970)を中心とする「人間性心理学」(Humanistic Psychology)があります。この人間性心理学には「人間は自分の可能性や潜在能力を実現させようとする成長欲求を持ち、つねに自己実現欲求を満たそうと

する存在である」という考えがあります。人間を性善説に立脚する存在として捉えています。教育現場においては、授業を妨害したり、逸脱行為に走ったりする児童生徒がいたとしても、どの子どもにも「学びたい、人生を全うに生きたい」という思いがあります。そして、この人間性心理学理論に基づく人間観を外国語教育に援用したものがHLTと言ってもいいでしょう。

幸い、日本では2018年に静岡大学名誉教授である三浦孝先生を中心とし、その有志が「ヒューマニスティック英語教育研究会」を立ち上げ、目下、HLTに関する教育・研究を重ねています。本誌では、当研究会の教育・研究成果を踏まえながら、HLTについて考えていきたいと思えます。

## 2.2. HLTの目標とは

HLTに基づく授業は、次の5つの視点から設定される目標に支えられています(三浦、

加賀田他 2021,一部改変)。

### ・ 認知的目標

目標言語によるコミュニケーション能力、論理的思考力、批判的思考力等の獲得

### ・ 情意的目標

自他理解の深化、自己肯定感の高揚、自己実現意識の醸成

### ・ 相互作用的目标

他者と援助的人間関係を形成する能力の育成

### ・ 社会参加的目标

社会に建設的に参加、貢献しようとする意欲・態度の育成

### ・ 地球市民的目标

外国語という開かれた窓を通して、世界を広く見渡すことができる地球市民的視野の育成

したがって、これらの目標達成には、指導、教材、言語活動などに人格形成的視点が反映されている必要があります。ここでの教師の役割は、学習者一人ひとりを無条件に受容し、

そして積極的に関心をもちながら、彼ら彼女らからの一言、一言を全身で聴き、共感的理解を示すことです。

### 2.3. 言語活動設計の際に考慮すべきこと

人は誰しも自己表現欲求(「自分のことを他者にわかってもらいたい」)、他者理解や関係性構築の欲求(「他者のことをもっと知りたい。他者とつながりたい」)があります。したがって、これらの欲求を充足させるためには、自己関与性、他者関与性の高い言語活動を行うとともに、誤りを恐れずに自己表出できるよ

うな教師と学習者、学習者どうしの信頼に基づく安心、安全な学習環境づくりが大切になります。

では、どのような視点で言語活動を設計すればよいでしょうか。ここでは、とくに考慮すべきことを5つ挙げてみます。

#### ①学習者の自己理解を促す

HLTではとりわけ学習者の自己概念を高めることを重視します。自己概念(“self-concept”)とは、「自分自身のことをどのように感じ、考えているのか」、端的に言えば、「私は～である」という自分自身についての概念を言います。自分の「好きなこと、できること、長所」など、自分のポジティブな側面に注視して活動を作ります。しかし、活動を

行う過程で、自分の「嫌いなこと、できないこと、短所」などにも気づくことがあります。そのような場合には、肯定的、否定的な側面を含め自分をトータルに受け入れ、「あるがまま」の自分を理解できるよう促すことが大切です。ちなみに、自己関与性が高い活動は記憶に残りやすく、言語習得につながりやすいとされています。

#### <肯定的な自己発見を促すタスクの例>

- ・ Make a list of all the things you like about yourself.
- ・ What are your strong points and special talents?
- ・ List the three most important things you have achieved in your life.

#### ②他者との関係性を意識させる

人は他者との関係性の中で自己実現に向かうことから、「私たちはつねに他者を支え、他者から支えられている」ことを意識させます。したがって、授業では「最近人からもらった嬉しいことば／人に掛けてあげた嬉しいことば」「人を助けた/人から助けられたエピソード」などについて伝え合うことができるでしょう。

昨今では児童生徒の自己中心的、自己愛的

傾向が指摘され、また、他者との関係性の歪みから生じる様々な問題が生起していることから、児童生徒が他者との共感性を発達させていくことは特に重要です。したがって、授業ではペアワークやグループワークなどの協働学習の機会をこれまで以上に積極的に取り入れ、異なる者どうしが相互に影響し合いながら、ともに学びを広げ深めていくことが望まれます。

### <他者との関係性に気づかせるタスクの例>

- ・ What is the nicest thing you have done for your family or friends?
- ・ Make a list of the people that you feel close to and write a message to each person.
- ・ How do you maintain relationships with people who are different from you?

### ③学習者の思考や価値観を明確にする

「価値観を明確にする」とは、自分自身の独自性や人生の意味、存在理由を明確化することを意味します。幸い、現行の外国語(英語)教科書で扱われている題材には、生きる勇気を与え心を揺さぶるもの、他者の立場に立って考え共感性を養うもの、価値観を問うものなど、学習者の人間的成長に

寄与するものが多く見られます。

したがって、授業では、こうした英文を単なる内容理解練習の道具に留めることなく、「キング牧師の生き方をどう思うか」「あなたにとって友達とはどういう存在か」など、多様な生き方や価値観について考え直すきっかけを与えることが求められます。

### <思いや価値観を明確にするタスクの例>

- ・ What do you think about the way Martin Luther King Jr. lived his life ?
- ・ How do you define “friend” ?
- ・ Choose three of the following items that you think are the most important.

Then rank the items and state the reasons for each.

Time    Freedom    Status    Money    Family    Job    Health    Friend    Hobby

### ④学習者の創造性・想像性を高める

学習者の創造性・想像性を高めることはさらなる自己理解へとつながります。そもそも、子どもは独創性のかたまりです。それを発揮する機会を英語授業で設ければ、授業はわくわく熱気に満ちてきます。自分を「物」に投影したり、空想したり、物語の続きを創作したりする等の活動が挙げられます。このような活動を通して、学習者は普段気づきにくい「無意識下にある自己の存在」への気づきを得ることができるで

しょう。例えば、小学校では「色」や「形」の英単語を学習しますが、その際に、“What color/shape are you? Why?”(あなたは(色/形)にたとえると、)どんな色/形? どうして?)と自己の内面を色や形に投影することで、自己理解につなげることができます。縫部(1985)は、「空想」、つまり「学習者の内的世界に出現する非現実的な世界」は自己にとってリアルな世界であり、よって自己理解を促進することを示唆しています。

### <ファンタジーを用いたタスクの例>

- ・ What animal/fruit would you like to be? Why?
- ・ Suppose you were a smartphone. What message would you send to your owner?
- ・ (Using the song “Puff (the Magic Dragon) ” ) Write a follow-up story after “the dragon slipped into his cave.”

### ⑤学習者の地球市民としての意識を高める

授業では、学習者と集団、社会、世界との関わりについて問うことで、学習者が地球市民の一人であることを意識させることができます。実際、現行の教科書にはローカルかつグローバルなレベルで、環境、人権、平和、福祉、異文化などに関する題材が豊富です。また、小・中・高すべての教科書でSDGs関連トピックが扱われています。たとえば、「科学技術の進歩は私たちの生

活にどのような影響を与えたか」「公正な社会を築くためにはどうすればよいか」などと問うことで、現代社会や地球規模の課題についてより深く理解したり、批判的思考力、創造的思考力、問題解決能力を伸長したりする機会につながります。このような過程を通して、学習者一人ひとりが地球市民の一人であることを意識させたいものです。

### <社会的課題解決を考えるタスクの例>

- ・ Do you see any similarities or differences in the food culture of Japan and other Asian countries?
- ・ How has the development of technology affected our daily life? Has technology made us more creative?
- ・ When and where do you feel inequality or prejudices? How would it be possible to solve this /these issue(s)?

## 3. 人格形成をめざす英語授業の実践例

ここでは、人格形成をめざす英語授業の実践例を校種ごとに紹介します。なお、小学校は加賀田、中学校は鈴木、高校は石井の実践、大学は加賀田(2001)の実践から取

り挙げています。なお、小・中・高の実践の詳細は三浦・加賀田・柳田(2025)をご参照ください。

### <小学校>

活動名：「自分のことを5行詩で表現しよう」

自分への洞察を深めることで、自分は世界でたった一人の特別な存在であることを意識させます。(2025年を一部改変)

### <作品例>

Tetsuya

Kind, and friendly

Family, books, karaoke, and teaching

This is Me.

I am SPECIAL.

1行目は名前です。名前は親からもらった最初のステキなプレゼントで、その人のアイデンティティそのものです。2行目は、自分の性格や資質を表す単語を2、3つ選びます。その際、他者と比較する必要はなく、今の自分を最もよく表す単語を恥ずか

しがらず選ぶよう促します。3行目は自分が大切にしているもの、特徴づけるものを3、4つ並べます。4行目、5行目の“*This is Me.*”, “*I am Special.*”(これが私。かけがえのない特別な存在です。)は固定とします。

### <中学校>

活動名：「～さんがヒーローになったら」(目標文法：仮定法過去)

自分のことではなく、ペアになった相手について「その人がヒーローだとしたら、どんなふうにみんなの役に立つことができるか」を考えて書き、それをクラス全体で共有することで、他者受容、他者理解へとつなげます。

### <作品例>

If Ms. A were a hero, she would sing and fight the enemy. She is a girl who is good at singing and sports. When she finds people who are sad, she transforms and fights the enemy. She has a *ice* button. If she pushes it, she uses a “special beam”. The special beam is very powerful, so she can defeat the enemy. Why can she use the beam? Because she is very strong. If the enemy is used the beam, it can never *stands* up. She also starts to sing songs and makes people happy. She flies and goes to a lot of people who are sad.

### <高校>

活動名：「自分が親になったら我が子に言ってあげたい言葉」

自分が親になったとして、子どもに何を言ってあげたいかを考え、理由とともに表現します。そうすることで、現在親の口から発せられる言葉のほとんどが我が子のためを思っている言葉であることに気づかせます。また、これらの言葉は自分から自分へのメッセージと捉えることもできます。

### <作品例>

You shouldn't do part-time job when you are a high school student. It is because you must make money in the future. So, you should feel *seisyun* in high school life.

(理由)大人になってからは嫌でも働いてお金を稼がなきゃいけないから、高校生活でしか味わえない部活や恋愛の青春を送って欲しい。

You should do something that you want to do. But you must do the things that you have to do. You should be kind to people. I'm sure the happy things will return to you if you do that.

(理由)自分が母親から言われてきたことで、人に親切にすればきっといいことが返ってくると思うので、子供にも言ってあげたいです。

### <大学>

活動名：「Puffのその後？」

Peter, Paul, & Maryが1963年にリリースした名曲Puff (the Magic Dragon)を使用した活動です。この歌は不老のドラゴンのパフと少年のジャッキー・ペーパーとの関係性を描いています。1節目、2節目ではパフとジャッキーの無邪気で友好的な交流が描かれています。3節目で親友だったジャッキーが突然パフの前に現れなくなりパフは悲愴感に苛まれ洞窟に入り込んでいくというストーリーです。ここでは、ストーリーのその後の展開を考えることで、学習者の創造性・想像性を高めることをねらいとしています。

### <作品例>

One night Puff saw a dream. In the dream Jackie appeared. Jackie said, "It's a long time since I saw you last. I'm sorry, Puff. I can't play with you any more. You have no need to feel sad. I know you need friends, Puff. You can make friends. Enjoy your life without me. I can see you everytime, everywhere. I always live in your heart. You should discover your new life and new friends. Believe in yourself..." Jackie faded away. Puff went to make friends and succeeded making a new friend. His name was Jack Paper. He was Jackie's son. (male)

ふりかえり：この創作文を書くにあたって気をつけたことは、肯定的な内容にしようとしたことです。Jackie と Puff が本当の友人なら、Jackie はPuff に叱ってでも元気を出すように言うと思ったので、そういう

内容にしました。そして Puff も幸せになるという話にしました。なぜ僕が肯定的な文章にしたかというと、もし僕が Puff のような状況におかれたとしても、常に物事を肯定的に考えていきたいと思ったからです。

## 4. おわりに

語学学習には暗記やリピートは必要不可欠です。しかしいつも「これは試験に出るから、しっかり覚えるように」「Please repeat after me.」では、あえて英語嫌いをつくるようなものです。したがって、暗記やリピートを行いつつも、学習者の人格形成に資する授業へと目を向けることを心掛けたいものです。つまり、学習者の英語力や英語によるコミュニケーション能力を保障する授業を行う中で、教師がいかに学習者の自己肯定感、自己受容、他者受容など人格形成を促す視点を持ち合わせているかが問われてきます。現行の英語の教科書には自己理解や他者理解を深めるための題材がたくさん取り挙げられています。これらの題材をいかに創意工夫を施しながら扱っていくかは教師次第です。

こういった人格形成の視点を持ち合わせると授業は自ずと「楽しく」なります。学ぶ楽しさとは、学ぶ内容が学習者にとって

意味をもっていることです。「今学んでいることは、自分自身を高めてくれる、価値がある」「英語を学ぶことは、将来自分がよりよく生きることにつながる」と感じる事ができれば、人は積極的に学ぼうとします。また、自分たちが主体となって活動し、友だちとふれ合い、教え合い、協力し合って不可能を可能にし、課題を成し遂げていきます。このような授業を通してこそ、「知」を探究する喜びとともに、他者との関係性の中で自分自身のよさや可能性に気づき、「夢」と「希望」を抱きながら英語の学びと向き合うことができるでしょう。

「人格形成をめざす英語教育(HLT)」に関する詳しい理念や指導法、実践例については、「ヒューマニスティック英語教育研究会」ホームページや、『心を育てる英語授業、はじめました—教師たちの挑戦と実践』(2025年)をご参照ください。

言葉の前に、相手が存在し、その人を知りたい、その人に伝えたいという気持ちがある。  
言葉の前に、相手への関心があり、相手との関係を築いていきたいという気持ちがある。  
そして、言葉やかかわりを通して、様々な体験が形づくられ、人間の豊かさが共有できる。

### 参考文献

加賀田哲也(2001)「学習者の情意面(人間性)重視の英語教育—“Puff (The Magic Dragon)”を使った授業実践—」『大阪商業大学論集』第120号、57-78頁。

三浦孝、加賀田哲也(2025)「人間形成的な英語教育」『新英語教育』1月号、高文研。

三浦孝、加賀田哲也、柳田綾編(2025)『心を育てる英語授業、はじめました—教師たちの挑戦と実践』 研究社。



GEETブランドコンセプト・  
TOEFL Primary®/TOEFL Junior®に関する情報はQRコードから